

若竹寮は3年後に指定管理者制度へ移行か 上越地方広域事務連絡調整会議で行政側が説明



上越地方広域事務連絡調整会議が21日、上越市役所でありまし

た。この会議は児童養護施設若竹寮と五智養護老人ホームの運営に関して糸魚川市、妙高市、上越市が「調整する」もの。糸魚川市の市長、市

議会正副議長、妙高市担当部長、上越市の市長、議会議長と私など3市議が参加しました。

この会議の中で事務局側は、若竹寮改築事業費が当初の5億8400万円から6億4341万円に増額される見通しであることを明らかにしました。その理由として、事務局側は地盤改良、備品購入、用地代で当初予定を大きく上回るようになったことをあげました。また、同施設は概ね3年後に指定管理者制度への移行を指していることも明らかにしました。説明によると、指定管理者制度への移行に際しては、「措置費の範囲内で全ての経費を賄わせることを原則とする」ことで（3市が出している約6000万円の）負担金を必要としない運営体制を目指すと、人件費の大幅な削減が必要となります。これらについ

ては今後、市議会厚生常任委員会などで議論されることになるでしょう。（写真は21日の会議）

若竹寮の入所者数は現在48名。このうち、上越市出身が37名、妙高市出身が8名、糸魚川市出身は3名となっています。事務局によると、かつての親のいない子どもが入所する時代が終わり、いまは親がいても子どもが育ちにくい環境に置かれている子ども、たとえば虐待を受けている子どもなどの入所が増えているとのことでした。

TPP問題で農業団体と懇談

日本共産党上越地区委員会は15日、市内の二つの農業団体幹部と懇談しました。ひとつは関川水系土地改良区です。同土地改良区は組合員数が6000人を超え、受益面積も7000ヘクタールを超えていて、土地改良区として県内2番目に大きい組織です。上越地区委員会女性子ども部長（衆院新潟6区予定候補）の高



【サラシナショウマ】キンポウゲ科の多年草。花の時期は10月。山の裾野に白い花がすっくと出ていと素敵です。漢字で「晒菜升麻」と書きます。花言葉は「雰囲気の良い人」だそうです。

橋みきこさん、平良木市議とともに訪問し、滝沢理事長さんや玉井事務局長さんと懇談させてもらいました。

懇談は主にTPP問題が中心です。同土地改良区ではすでに総代会で反対決議をあげていますが、最近の野田総理のTPP参加表明については、農業農村に重大な影響を与えるものだという認識は私たちと共通でした。TPP参加によって、米価が下がり、農業の担い手がいつそなくなり、農地の維持管理はこれまで以上に厳しくなります。土地改良費などの滞納も増えるのではないかといいました。懇談が終わってから、同土地改良区の用水路の仕組みや発電所のジオラマ（写真）を見せていただきました。

いまひとつは大潟区にある朝日池総合農場です。同農場の代表、平澤栄一さんと懇談させてもらいました。日本共産党からは中央委員会政策委員の藤野やすみさん、高橋みきこさん、上野市議が参加しました。私は牧区地域協議会を傍聴してきたため途中からの合流でした。平澤さんはTPP参加問題だけでなく、消費税増税問題を重視した発言をされていました。この二つで「農業は壊滅的な打撃をこうむる」との発言が印象に残りました。農産物直売所については、おもしろい話を聞きました。農場で飼っているヤギが大変な人気だということです。子ども連れで来る人もいれば、一人で来て長時間にわたってヤギをじっと見ている人もいます。12月定例市議会が12月3日から17日までの日程で開かれます。詳しくは次号で。

ふとしたことから記憶というものは甦（よみがえ）るものですね。直江津の学びの交流館でドキュメント映画「贅女さんの唄が聞こえる」を観た時、居間の柱時計が鳴る場面が出てきました。音を聞いた途端、祖父の葬儀のことを思い出しました。

私の祖父・音治郎は一九六四年（昭和三九年）の三月、夕飯を食べていた時に突然箸をぼろりと落とし、徐々に意識を失って、一週間後には絶命してしまいました。葬儀は三月の二日か二日だったと思いますが、その葬儀の途中、広間と座敷の間にある柱にかけてあった時計が鳴りました。その時のボン、ボンという音と映画の中の時計の音がまったく同じだったのです。

葬儀の時、時計が何時に鳴ったのかしつかり覚えていませんが、おそらく午前一時か二時だったのではないかと思います。わが家の時計は三〇分ごとに鳴りました。一〇時なら、ボンという音が一〇回、一時なら一回、そして半時間を知らせる時にはボンが一回あるいは二回鳴ったのです。お経の最中にボンという音を何回も繰り返したものですから、当時中学二年生だった私は、タイムリングが悪いと思ったものでした。止めるにも止められず、じっと待つしかなかった、その時の切なさや時計の音とともに記憶していました。

当時、わが家の柱時計はひとつだけでした。いうまでもなく手巻き式です。ゼンマイの緩み具合を目で確認して、適当な時にゼンマイを巻く、その役目はいつしか私のところに来ていました。父か祖父に言いつけられて、私がゼンマイを巻くことになったのだと思います。時計が鳴った時の切なさは、たぶん、私の役目からのものだったのでしょう。

わが家にあった柱時計を思い出したことによって、葬儀そのものの記憶はあまり甦ってこなかったのですが、祖父の亡くなった日のことが次々と浮かんできました。

午後の四時過ぎ、祖父の呼吸が荒くなってきた時、父は私に医者を迎えに行くよう命じました。まだ当時は蚩場から村屋の間の道路は除雪されていませんでした。長靴をはいた私は雪道を走りました。「じちゃ、待ってないや、医者すぐつんでくるすけね」そう叫びながら走り続けました。

わが家から道を二キロほど下っていくと県道川谷十町歩線にぶつかります。村屋の丁字路です。ここにお医者さんが来るはずでした。この場所に着いたときは汗びっしょりでした。着いてから三〇分くらいは待っていたのではないかと思います。もう五分、もう一〇分と待ち続けたものの、原之町からやってくるはずだったお医者さんの姿は見えませんでした。おそらくお医者さんは、急いで行っても無駄だと判断されていたのでしょう。

お医者さんを待ち続けた場所はいまでも鮮明に覚えています。稲などをかけるハサ場でした。くたびれた私はハサにおっかかりながら待ちました。どれくらい待った時だったのでしょうか、おっかかりかかっていたハサ木が突然、ポキッと折れました。「あっ」と思った、この瞬間が忘れられません。家から、「もう、じちゃの目が落ちたすけ帰ってこい」と連絡があった時、ハサ木が折れた時間が祖父の死んだ時間だと思いました。

いまわが家にある時計は電池式です。便利な柱時計ではありませんが、映画で時計の音を聴いてから、やはり手巻き式でボンと音が出るのがいいなと思いはじめます。

「ゆっくり移住する」取組などを学ぶ

市議会中山間地対策特別委員会は19日、千葉県鴨川市釜沼北集落を訪れ、農家・非農家が力を合わせて集落を維持、活性化させている取組について学びました。

具体的には、中山間地域等直接支払制度を活用した農道、用水路の整備、棚田オーナー制度の活用、都市との交流についての経験を話してもらい、勉強してきました。

研修で注目したのは、13年前に釜沼に移住してきた林良樹さんの話です。林さんは50アールの土地を貸してもらい、古い農機具も譲ってもらいました。そして農業をやりながら、都市交流などに意欲的に取り組んでいます。

林さんは、「小さな面積では生活できないので都市との交流に力を入れている。地域の炭焼き農家などいろんな人が先生になって持続可能な暮

らしを学んだ。3.11以後、自分の身を自分で守ろうという人が爆発的に増えている。農とか土などが注目されているが、そういうエネルギーを、山の再生に活かしていきたい」とのべていました。

林さんによると、釜沼を含む大山区は「ナンバーワンの限界集落」。でも、棚田オーナーなどの8割はリピーターで、都市部から通ってくる人が増えてきていて、「血縁を超えたふるさとづくり」が始まっているといいます。「通うことでゆっくりと移住する。そういう人が増える中で、都市と農村がグラデーションのようにつながっていければいい」とも語っておられました。

この日の林さんの言葉の中で印象に残ったのは、「ゆっくり移住する」「農村社会は信頼で成り立っている」「交流事業が人口を増やす」。林さんの話を聴いて、上越市での取組のヒントをもらったような気がしました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月14日(水)	11月21日(水)
上越南消防署	0.046	0.030
上越北消防署	0.060	0.057
新井消防署	0.070	0.053
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.067	0.040
東頸消防署	0.043	0.047
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.080	0.043